

平成 27 年度

事業報告書

社会福祉法人 芳清会

目 次

I 総務課	1
II 事業部	2
〔1〕 各種委員会・会議等	2
〔2〕 研修	4
1. 外部研修	4
2. 内部研修	6
〔3〕 年間行事	6
〔4〕 アクティビティ	7
〔5〕 実習・見学等	10
1. 実習・見学受け入れ	10
2. 一般の見学	11
〔6〕 ボランティア	11
〔7〕 医務室	12
〔8〕 栄養	17
〔9〕 特別養護老人ホーム	20
1. 在籍	20
2. 退居	21
3. 新規入居	22
4. 入居申し込みと待機者状況	22
5. 入院実績	23
6. 受診実績	23
7. 要介護度推移	27
8. 平均年齢推移	27
9. 収入段階、利用料	27
10. 外出	28
11. 外泊	28
12. 面会	28
13. 相談員の業務を振り返って	28
14. その他	29
15. 介護	29
〔10〕 デイサービス	31
〔11〕 ショートステイ	33
〔12〕 居宅介護支援事業所	39

I. 総務課

〔1〕 【自衛消防訓練等】

1. 第1回目

日 時 平成27年5月20日 午後2時から午後3時

内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）

参加人数 約30名（職員・入居者・利用者）

届出関係 川越消防署届出

2. 第2回目

日 時 平成27年10月22日 午後2時から午後3時

内 容 総合訓練（避難・消火）

参加人数 約30名（職員・入居者・利用者）

届出関係 川越消防署届出

〔2〕 【職員健康診断】

1. 第1回目

日 時 平成27年8月27日・28日 午前9時から午後0時

内 容 全職員対象

受診人数 92名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・G O T・G P T・ γ -G T P・総コレステロール・H D L-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

2. 第2回目

日 時 平成28年2月23日 午前9時から午後0時

内 容 夜勤職員対象

受診人数 52名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・G O T・G P T・ γ -G T P・総コレステロール・H D L-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

Ⅱ 事業部

〔1〕各種委員会・会議等

1. 衛生管理委員会

産業医の指導の下、入居者様や介護従事者の健康管理について検討を行った。特にインフルエンザやノロウィルスなどの感染症については情報の共有を徹底し、発生・感染しないように加湿や手洗い方法、症状が見られた際の早めの対応等の体制を検討し、整えた。また、施設内備品の配置や扱い方、保管方法についても、産業医による巡回指導を実施した。

また介護従事者の健康診断を実施し、その結果についても再検診等の指導を行った。

2. 苦情対策委員会

今年度の苦情の申し出は2件あった。介護職員の介護方法についてのご指摘と、食事への異物混入についてのご意見であった。それぞれについて委員会内にて報告し、職員間で会議の場を設け、今後の対応について検討した。申し出者へは、謝罪と改善についての報告を行った。

3. 事故・身体拘束防止委員会

今年度発生事故件数は、合計107件であった。(前年度より43件増)

前年度に比べ、件数が大幅に増加した理由として、事故に分類する基準の見直しを行い、比較的軽度と思われる内容についても事故とし扱った事が挙げられる。事故内容を事業所別に見ると、デイサービス4件、ショートステイ17件、特養82件(2階・32件、3階・18件、4階・32件)医務4件であった。事故内容は、転倒や車椅子からのずり落ち等による打撲や裂傷が62件と最も多く、骨折事故も発生してしまった。委員会では、それぞれの事故についての原因究明と再発防止に努め、全職員が統一した認識を持って事故防止に取り組めるよう、施設内で起きた全ての事例を、全ての部署で確認できるようにした。

ヒヤリハットについては大きな事故につながらなかったものの、168件(前年度より21件減)の事例があった。それらについても情報を共有し、対応策を検討した。

今年度も引き続き、お一人お一人の予測される事故の「事故リスク一覧」を作成し、3ヶ月に一度の見直しを行った。

4. 褥瘡対策委員会

現在褥瘡が発症している方の状態報告と、褥瘡になる可能性がある方について、看護師と栄養士、介護職が情報を共有して改善策を検討した。取り組みの効果も見られ、入居時に褥瘡があった方も、完治に近い状態まで回復した。

5. 排泄委員会

「おむつゼロ」への取り組みで、排泄習慣の確認や排便状況の情報収集を行っ

た。おむつ使用量の減少や、摂取水分量の増加、下剤使用量の減少など、一定の成果が見られた。オムツ対応だった方をトイレに誘導する機会も増えている。今後も施設職員が一体となり、より良い排泄介助、より良い介護の提供へと取り組んでいく。

6. 医療的ケア安全対策委員会

認定特定行為業務従事者登録を行った介護職員が、看護師の指導にて安全に医療的ケアが行えるよう、その仕組みや方法について検討した。

7. ケアプラン会議

ア) カンファレンスの開催

6ヶ月毎にケアプラン会議を開催し、全入居者様のケアプランを作成した。アセスメントについては、施設独自の表を使い、それぞれの担当職員と他職種間で意見交換を行い作成した。また、更新や区分変更で要介護度が変更になった際や、入退院等で心身状態が大きく変化した際も臨時で会議を開催し、プランの変更を行った。作成したケアプランはご家族に送付し、署名を頂いた。

	会議件数		会議件数		会議件数
4月	23	9月	16	2月	25
5月	18	10月	21	3月	19
6月	16	11月	18		
7月	18	12月	20		
8月	22	1月	16	合計	232

イ) 看取り介護

今年度は4名の方の看取り介護に取り組んだ。随時の情報交換、情報共有を徹底し、ご家族を交えた話し合いの中で、その都度看取り介護体制の整備に努めた。また、看取り介護を終えた方については後の振り返りの中で、看取り介護についての体制作り、心構えを改めて確認した。

今後も看取り介護に取り組む機会が増えていくと思われるので、ご家族や医師、各職種間で協力して取り組んでいきたい。

8. 入居検討委員会

第三者委員が参加し、本年度は5回開催された。

開催日 5月26日、7月23日、12月25日、2月24日、3月28日

今年度も措置入居の事例はなく、申込書の記入内容と相談内容により、県の優先順位の規定に基づき検討した事が確認されている。

9. 入居判定会議

今年度の新規入居は25件であった。その都度、入居申込者の中から優先順位の高い方の面談調査を行い、ご家族の意向とご本人の状態を基に、各フロアでの

対応と生活介護上の課題について検討し、会議で検討された方は全員入居可となった。

10. 入居者自治会

体調面による理由から、自治会に参加される入居者様が極端に少なくなった為、今年度から全体会は行わずに、個別に訪問してご意見を伺った。主に生活環境に対するご意見や、行事についての案内、また食事に対するご意見も多く聞かれ、「旬の食材を使った料理が食べたい」など、様々なご要望も頂いた。

〔2〕研修

1. 外部研修

研修日	研 修 名	参加者
6月 2日 6月 4日	キャリアパス対応・チームリーダー研修	1名
6月 10日	埼玉県社会福祉法人経営者協議会・第1回経営協セミナー	1名
6月 15日 6月 16日	タイムマネジメント研修	1名
6月 22日 6月 23日	キャリアパス対応・中堅職員研修	1名
6月 23日	平成27年度集団指導	2名
7月 3日 7月 6日	キャリアパス対応・初任者研修	1名
7月 15日	埼玉県老人福祉施設協議会入間東支部研修会	1名
8月 1日	メディカルケアサポートセミナーin埼玉	2名
8月 10日 10月 7日	ナレッジマネジメント研修	1名
8月 18日～ 10月 6日	スーパーバイザー研修	1名
8月 31日	埼玉県老人福祉施設協議会・事務員研修会	1名
8月 31日	改正社会福祉法	1名
9月 9日	高齢者施設における看護師の役割	1名
9月 24日～ 11月 4日	介護支援専門員更新研修	1名
9月 29日	ケアプラン・スキルアップ研修	1名
10月 7日	モチベーションアップ研修	1名
10月 10日	老人福祉施設栄養士情報連絡会	1名

10月14日	福祉職員のためのプレゼンテーション研修	1名
10月29日	ユニットケア・フォローアップ研修会	1名
11月6日～ 11月8日	リスクマネジメント研修	1名
11月9日	高齢者施設レクリエーション研修	1名
11月9日～ 11月27日	職場研修担当者養成研修	1名
11月10日	福祉施設関係者感染症予防研修会	2名
11月13日～ 11月15日	リスクマネジメント研修	1名
11月20日	デイサービスにおける余暇活動の実践	2名
11月30日	介護記録等の書き方研修	1名
12月17日	職員のメンタルヘルス・職場の環境づくり	1名
12月17日	埼玉県老人福祉施設協議会入間東支部研修会	1名
12月25日	かわごえコミュニティネットワーク	1名
1月22日	介護職員スキルアップ研修会『移乗技術講習』	1名
2月3日～ 2月15日	エルダー育成研修	3名
2月8日	埼玉県老人福祉施設協議会・栄養士調理員研修会	1名
2月9日	看取りケアについて	2名
2月13日	老人福祉施設栄養士情報連絡会	1名
2月15日	高齢者施設レクリエーション研修	1名
2月19日	埼玉県老人福祉施設協議会・相談員研修会	2名
3月12日	介護支援専門員スキルアップ研修	1名
3月16日	コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修	1名

2. 内部研修

研修日	研修内容	講師（報告者）	参加人数
5月20日	感染症応研修会	看護師主任・特養所長	16名
6月16日	事故防止研修会	特養所長	25名
6月25日	新任職員研修	理事長、施設長、 総務部長、特養所長	11名

7月28日～ 7月30日	介護職員処遇改善加算研修会	総務部長	69名
9月1日	高齢者虐待防止研修会	特養所長	19名
9月15日	看取り介護研修会	看護師主任・特養所長	21名
10月20日	褥瘡予防研修会	介護職員・看護師	20名
11月17日	感染症研修会	介護職員・看護師	25名
12月15日	事故防止研修会	特養所長	19名
2月16日 2月19日	紙オムツ講習会	ユニチャーム	19名 15名
3月15日	看取り介護研修会	特養所長	15名

〔3〕年間行事

月 日	行事名	行事内容
4月上旬	お花見	日東団地周辺、上奥富運動公園、水上公園等
4月18日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。15名の方が、ご家族7組と一緒に参加された。
6月4日	収穫祭 (梅狩り)	特養の入居者様15名、ボランティア2名が参加され、大きな梅の実を約30kg収穫した。収穫した梅の実で、梅ジュースを作った。
9月13日	敬老会	敬老会を開催した。古希から百六賀まで、24名の方が表彰を受け、50名のご家族にも参加して頂き、表彰式、ボランティアの方々の催し、昼食会を楽しまれた。
9月16日	まきば保育園 訪問	近隣の保育園児39名が来所し、歌や踊りを披露した。かわいい子供たちとの交流で、たくさんの笑顔を見ることができた。
10月4日	八瀬の里祭り	あいにくの雨模様の中、屋内での吹奏楽演奏で開始となる。恒例の和太鼓、お囃子、模擬店開催と、賑やかなお祭りを味わって頂いた。 72名のご家族も来所され、最後は参加者全員で記念撮影を行い、終了となった。
11月23日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。15名の方が、ご家族5組と一緒に参加された。
3月21日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を

		楽しんで頂いた。12名の方が、ご家族4組と一緒に参加された。
--	--	--------------------------------

〔4〕アクティビティ

各ユニットで企画された、季節に応じたアクティビティが、下記の通りに実施された。

表1. 実施アクティビティ一覧

実施日	参加人数	「食」関連	誕生会	季節関連	買い物、行き先	行き先の地域資源
4月	9			花見会	水上公園	
	7			花見会	大東地区	
	8	昼食会		花見会/寿司	日東町	
	15	おやつレク		ケーキ		
	16	昼食会		花見会/寿司	上奥富公園	
	14	昼食会		寿司		
	16	おやつレク	誕生会	たこ焼き		
	8	昼食会		花見会/寿司	日東町	
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
4			薔薇鑑賞	智光山公園		
5月	5	外食レク		アイスクリーム	イオン狭山奥富店	
	4	昼食会		フードコート	イオン狭山奥富店	
	8		誕生会			
	32			音楽レク		ボランティア
	15			新緑会	智光山公園	
6月	15			梅狩り	リキゴルフ	
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8			薔薇鑑賞	智光山公園	
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	4			史跡巡り	的場、笠幡地区	
7月	3	昼食会		ラーメン	幸楽苑	
	7		誕生会			
	11	おやつレク		ケーキ		
	5	おやつレク		餃子		
	28		誕生会			
	32			音楽レク		ボランティア
	16	昼食会		焼きそば		

	18	おやつレク		プリン		
8月	6	おやつレク	誕生日会	ケーキ		
	7	おやつレク	誕生日会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生日会	ホットケーキ		
	29	おやつレク		かき氷		
	32	おやつレク		カキ氷		
	19	おやつレク		カキ氷		
	20	フロアレク		花火他		
	13		誕生会			
9月	7	おやつレク	誕生日会	ケーキ		
	5	蕎麦		蕎麦	籠屋	
	7	おやつレク	誕生日会	ケーキ		
	4	昼食会		和食	とんでん	
	25			音楽レク		ボランティア
10月	14		誕生会			
	5	ピクニック		サンドウィッチ	リキゴルフ	
	5				安比奈親水公園	
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
11月	4	蕎麦		蕎麦	籠屋	
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	フルーツカクテル		
	15			音楽レク		職員
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
12月	29			音楽レク		ボランティア
	32			クリスマス会		
	28			クリスマス会		
	22			クリスマス会		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	6	おやつレク	誕生会	ケーキ		
1月	19			初詣		
	8			初詣		
	12			初詣		
	21			初詣		

	9			初詣		
	16	昼食レク		ネギトロ丼		
2月	15	昼食レク		鉄火丼		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	18			新年会		職員
	29			新年会		職員
	25			新年会		職員
	3月	7	おやつレク	誕生会	ケーキ	
8		おやつレク	誕生会	プリン		
8		おやつレク	誕生会	プリン		
8		おやつレク	誕生会	プリン		
26		おやつレク		ホットケーキ		
31				抹茶/茶話会		
15		おやつレク	誕生会	プリン		

表2. アクティビティ参加人数

月	件数	参加人数(名)	食関連	誕生会	季節関連	買物	交流
4	11	113	93	32	66	0	0
5	5	64	9	8	41	9	32
6	5	43	16	16	27	4	0
7	8	120	53	35	40	0	32
8	8	134	69	34	100	0	0
9	5	48	23	14	30	0	32
10	4	31	12	21	5	0	0
11	5	42	27	23	19	0	15
12	6	125	14	14	111	0	29
1	6	85	16	0	69	0	0
2	6	103	31	16	72	0	0
3	7	103	72	46	31	0	0
合計	76	1011	435	259	611	13	140

表3. 階別アクティビティ回数

	施設内	外出	合計
2階	25件	5件	30件

3 階	28 件	9 件	37 件
4 階	23 件	9 件	32 件
合 計	76 件	23 件	99 件

〔5〕 実習・見学等

1. 実習・見学等受入

項 目	実習日時	人数	内 容・目 的
大東西小学校町探検	6 月 16 日	18 名	地域の施設を訪問し、知識を深めると共に、地域交流を図る。
市立小・中学校 5 年経験者研修	8 月 17 日～19 日	3 名	他者への思いやりの心や公共心を深めるとともに、福祉分野に係わる学校教育以外の社会に視野を広げる。
大東西小学校 JRC 活動	12 月 2 日	23 名	リコーダーの演奏や、コマ回し、紙芝居、折り紙、けん玉等を披露し、子供たちとの交流を図った。
大東西中学校訪問交流会	12 月 21 日	55 名	中学校の生徒たちの訪問にて、合唱や踊りの出し物等の披露を楽しんで頂き、地域交流を図った。
川越市立大東西中学校 社会体験学習	2 月 15 日～17 日	5 名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
川越市立大東中学校 社会体験学習	2 月 22 日～24 日	3 名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
計	6 件	107 名	

2. 一般の見学

月	件数	人数 (名)	月	件数	人数 (名)
4 月	8	9	10 月	1	4
5 月	3	5	11 月	3	7

6月	5	5	12月	5	8
7月	4	6	1月	4	4
8月	6	8	2月	3	3
9月	2	2	3月	2	4
			合計	46件	65名

〔6〕ボランティア

月	件数	詳細
	人数	
4月	19件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、玉すだれ、傾聴
	42人	
5月	17件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、フラダンス、傾聴
	28人	
6月	18件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、琴、傾聴
	42人	
7月	18件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	25人	
8月	17件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、琴、傾聴
	25人	
9月	17件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	22人	
10月	21件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、琴、落語、八瀬の里祭、傾聴
	48人	
11月	20件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、琴、傾聴
	33人	
12月	24件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、琴、フラダンス、傾聴
	47人	
1月	17件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	30人	
2月	20件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、琴、傾聴
	40人	
3月	16件	書道、楽器演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	22人	

合計	224 件
	404 人

〔7〕 医務室

『健康管理』に伴う基本方針」に基づき、入居者様および利用者様に対し健康管理および医療処置を行った。

「健康管理」に伴う基本方針

- ・入居者様の生活に障害となる疾病や症状に対して、健康面からの管理を行った。如何にその人らしく生活出来るかの可能性を探り、入居者様自身がどんな生活を望んでいるかと言う視点で、入居者様が毎日の生活を快適に過ごすことが出来る様サポートした。
- ・特に、疾病予防医療に重点を置き、どんな方法を使えば状態を維持出来るか、あるいは、苦痛無く回復出来るかを検討し、他の職種間との協働で健康管理サービスを提供した。
- ・それぞれの入居者様の意思（ライフスタイル）を尊重し、入居者様自身、また、ご家族がどのような最期を望んでいるかを把握し、入居者様のリビングウィルに対応した健康管理サービス（医療処置）を提供した。

1. 予防医療

ア. 入居者様の健康状態の把握

- (1) 介護職員の報告を把握し、ユニット訪問による入居者様の健康状態の把握に努めた。
- (2) 毎日の排便をチェックし、下剤を調節して食物繊維や水分の摂取を促し、肛門診、坐薬、摘便、浣腸等での排便のコントロールを行った。

イ. 医療機関および医師による検診の実施

- (1) 川越市に住所のある入居者様 79 名（入院者 6 名、希望なし 4 名を除く）に対し、帯津三敬病院の医師および看護師が八瀬の里に出張して健康診断を実施し、結果を配置医に報告し入居者様の診察をした。
 - ・健康診断実施日：平成 27 年 10 月 14 日
 - ・健康診断受診結果については配置医へ回診時に報告。受診結果に応じて配置医から出された指示に基づき、ご家族に連絡の上、提携病院での受診対応を行なった。
- (2) 入居期間の短い入居者様については、入居前に健康診断を実施済みのため受験を省略した。（該当者 5 名）
- (3) 週 1 回、配置医の回診を実施し、異常の早期発見に努めた。

ウ. 流行性疾病蔓延の予防

(1) 肺炎球菌ワクチン接種を希望者7名に実施した。

(2) インフルエンザ予防接種の実施。

・実施日：平成27年11月16日〔入居者様：85名、職員：99名〕

エ. 感染の予防

(1) 感染予防のため、朝礼時に入居者様間で発生している疾病に関する情報を職員に伝達し、予防対策を指示することで、入居者様および職員の健康管理を促した。

(2) 研修および定期的な感染症対策委員会を実施することにより、最新の動向および新知識の把握に努め、職員の感染予防の意識向上を図った。

【内部研修】

・平成27年5月20日 感染症予防研修会：食中毒予防

・平成27年11月17日 感染症予防研修会：

現場で生かせる感染症予防対策（インフルエンザ、ノロウイルス）

【外部研修】

・平成27年11月10日 感染症研修会 於：川越保健所

【感染症対策委員会】

・平成27年6月23日 感染症対策委員会（定期）

・平成27年9月22日 感染症対策委員会（定期）

・平成27年11月24日 感染症対策委員会（定期）

・平成28年3月22日 感染症対策委員会（定期）〔計4回実施〕

(3) 発症はインフルエンザ：なし、ノロウイルス：2名。感染者の早期隔離および手洗い・うがい励行の強化、外部からのウイルス持ち込み予防に向けた消毒徹底により、感染の拡大を防いだ。

2. 治療医療

ア. 的確な症状の把握

(1) 介護職員の報告を把握し、バイタルサインの確認、異常症状発生以前からの状態の確認と変化した全身の状態を観察した。

(2) 医療機関およびご家族等の関係者からの入居者様情報の入手に努め、入手した情報を関係者に確実に連絡し、情報の共有化を図った。

イ. 症状に適した処置の実施

(1) 温冷罨法や安静にして様子を観察するなどにより、施設内処置を行った。

(2) 配置医の指示を仰ぎ、入居者様の処置を行った。特別な医療処置が必要な入居者様に対して、日常必要な医療処置の経管栄養・吸引・外科的・皮膚科的・泌尿器科的処置、湿布、点眼を行った。

内容	人数（延べ人数）
経管栄養（鼻腔・胃瘻）	9名
バルーンカテーテル留置	3名
吸引	18名
褥瘡	9名

(1) 必要時に医療機関で受診し、また、定期受診を継続した。（月別受診者数）

受診科 月	内科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	皮膚科	脳外科	精神科	糖尿病	循環器	内分泌	神経内科	口腔外科	婦人科	泌尿器科	形成外科	救急外来	合計
	4月	3	10	3	2		8	2		1			1			1		3
5月	4	12	2	3		1		1	2					1	1		4	31
6月	14		3	1	1		2	1	2			1			1		1	27
7月	11		12	3		1	1	1	2			1			1	4	2	39
8月	5		6	2		1		3	1						1	4	3	26
9月	19		2	1				3	1			1				4	5	36
10月	5		5	3			1	4				1			1	3		23
11月	16		2	2				2	4			1			1		4	32
12月	7		5	5	3	1		2	1		1	2			1	5	5	38
1月	7		2			1		3	2	1		1				2	2	21
2月	9	5	8	2		1		3	1	1		1	1			1	3	36
3月	11	1	5	1		1	1	3	2						1	4	1	31
計	111	28	55	25	4	15	7	26	19	2	1	10	1	1	9	27	33	374

(ア) 介護職員から入居者様の体調の変化に関する情報をこまめに入手し、早期に対応したため、受診者数が減った。

(イ) 内科の受診数は、配置医師が内科医に変わったことにより内科受診者数が増えた。

ウ. 誤薬の防止

(1) 入居者様の服用薬を管理し、処方された服用薬の確認と服用状況の把握を行った。

(2) 配置医による服用継続の確認を月1回行った。

(3) 配薬準備の際、2人以上でダブルチェックを行った。

・処方薬の効能書きをユニットに配布し、服用薬について介護職員の理解を深めた。

- ・服用時間帯毎にけやき薬局様が配薬準備を行い、看護師が配薬前に配薬内容を確認し、更に介護職員が服用時に入居者様名および薬袋、錠数を確認することで誤服用防止に努めた。
 - ・けやき薬局様が来所して、配薬準備にあたり残薬を確認することで、余分な薬を減らすことができた。
- (4) 万一に備え、誤服用があった場合の連絡ルートおよび状況確認について、再度、意識合わせを行った。

エ. 褥瘡の予防

- (1) 毎月、第一金曜日に褥瘡予防対策委員会を開催し、施設長を始め、所長、相談員、看護職、介護職、管理栄養士と入居者様の状態確認および褥瘡予防に向けた対応策を検討し協働と連携を図った。
- ① 定期的な褥瘡の評価を行い、早期治療を行った。
 - ② 皮膚の観察を定期的に行い、褥瘡の予防と早期発見を図った。
 - ③ ドレッシングテープや尿取りパッドを利用することで、褥瘡の治癒または改善が見られた。
- (2) 看護職員、介護職員、管理栄養士との連携により、褥瘡の予防が図れた。また褥瘡予防に対する理解を深めるため、研修会を行った。

【内部研修】

- ・平成 27 年 10 月 20 日 褥瘡予防研修会

3. 入居者様の意思を尊重した健康管理サービスの提供。

- ア. 入居時および入居後の健康状態の変化に合わせ、リビングウィルを確認した。

4. 看取り介護への取り組み。

- ア. 看取りの時期について配置医の判断を仰ぎ、ご家族に対して説明を行った。さらに看取りについてご家族がきちんと理解し、納得されたか、また入居者様およびご家族の死に関する要望を確認した。

- (1) 入居者様 4 名の看取りの対応を実施した。
- (2) 看取り介護の実施を通して入居者様自身だけでなくご家族への支援を通じ、モチベーションを高め、専門職としての成長を図ることができた。

- イ. 入居者様の夜間の急変時に備え、看護師は 24 時間のオンコール体制を取った。

- ウ. 看取りケアに関し、施設内で検討会および研修を行った。また提携病院と受け入れの打ち合わせを行った。

- エ. 外部研修の受講により知識を習得し、また職員を対象とした勉強会を実施することで、十分な看取りケアの実施に努めた。

【内部研修】

- ・平成 27 年 9 月 15 日 看取り介護研修会
- ・平成 28 年 3 月 15 日 看取り介護研修会

5. 均一な医療サービスの提供

- ア. 入居者様の健康情報を毎朝のミーティングで申し送りし、医務情報を共有した。
- イ. 実施した医療処置、健康状態、受診結果について記録に残し、併せて緊急時に適切な対応が取れるよう、関係部署との連携を図った。
- ウ. 必要な医療処置について外部研修の受講により知識を習得した。また看護師間の勉強会を実施し、医療知識、技術のレベルアップを図ると共に、介護職員への研修を実施して協働連携し、医療事故の防止に努めた。

【内部研修】

- ・平成 27 年 5 月 20 日介護職の医療的ケア(喀痰吸引と経管栄養等)について学ぶ。

【医療的ケア会議】

- ・平成 27 年 4 月 28 日 医療的ケア
- ・平成 27 年 6 月 23 日 医療的ケア
- ・平成 27 年 8 月 25 日 医療的ケア
- ・平成 27 年 10 月 27 日 医療的ケア
- ・平成 26 年 12 月 22 日 医療的ケア
- ・平成 28 年 2 月 23 日 医療的ケア

6. 災害・非常時への準備

- ア. 災害・非常時においても、入居者様、職員、地域の方々へ対応できるように保管場所(3階エレベータ前倉庫)において応急処置用品の確認を行った。また、入居者様の非常時持ち出し物品一覧表を作成し、全職員が周知し実際に行動できるように準備した。
- ・応急処置用品の管理に関しては消費期限があるため、数量の検討と物品の見直しを図った。(平成 28 年 3 月実施)

7. ショートステイ利用者様への対応

- ア. ショートステイの申し送りに毎日参加し情報把握に努めた。
- イ. ショートステイ利用者様の心身状態を観察し、必要に応じて医療処置を行った。
- ウ. ショートステイ利用者様の急変時、受診の要否を判断し、状況に応じた適切な対応を行った。
- エ. 夜間におけるショートステイ利用者様の急変のオンコールに対し、必要な対応を指示すると共に、状況に応じた適切な対応を行った。
- オ. 空床利用者様の情報を把握し服薬管理、必要に応じ医療処置を行った。
- カ. 利用者様の残存能力維持強化のため、状態に応じて日常動作の機能訓練を行った。

8. 看護職員および介護職員の連携による取り組み

- ア. 入居者様の高齢化に伴う ADL (Activity of Daily Living : 日常生活動作) の低下予防と現状維持に努めるため、個別機能訓練計画書を作成し、介護職員と

連携を図りながら取り組んだ。

イ. 個別機能訓練計画書に基づき、個別に機能訓練を実施、記録した。

3ヶ月毎の評価と見直しを実施し、ご家族への提示、了解を得た。

ウ. 一部医療処置（口腔内吸引、胃ろう注入の介助）について一定の条件を満たした介護職員から協力を得られるようになった。これらを実施するにあたり、看護職員および介護職員に対して指定の研修を実施した。また、実際に処置を行うために、研修を修了し施設長から配置医に申請して承認を受けた介護職員が入居者様やご家族の同意を得て実施している。

夜間用の吸引計画、実施記録用紙を作成し、頻回に吸引を必要とする入居者様に使用している。

9. 施設内勉強会への参加

ア. 入居者様に安全・安楽な生活をして頂けるよう、各種勉強会に参加した。

- ・平成27年5月20日 感染予防研修会
- ・平成27年6月16日 事故防止研修会
- ・平成27年9月1日 高齢者虐待防止研修会
- ・平成27年9月15日 看取り介護研修
- ・平成27年10月20日 褥瘡予防研修会
- ・平成27年11月17日 感染予防研修会
- ・平成27年12月15日 事故防止研修会
- ・平成28年2月9日 自衛消防訓練参加
- ・平成28年3月15日 看取り介護研修

〔8〕栄養科

1. 食の改善計画

基本方針として、「生きる力、生きる喜びへつながる食事提供」「個人への最適な栄養ケア」「低栄養・脱水状態の予防・改善に着目した栄養ケアの推進」の三点を挙げ活動を行なった。

委託業者との話し合いにおいて食事内容の改善を行い、入居者様に食べやすいメニューはもちろん、色彩や盛付けに工夫を凝らし、入居者様に喜んで召し上がって頂けるような食事提供に努めた。また簡単な食事やおやつ作りを一緒に行い、食事作りの音や香りを楽しんで頂くことができた。さらに入居者様の状態の変化に合わせたきめ細かい栄養ケアを目指し、各部署や厨房との連携を密に取りながら情報共有に努め、出来る限り個人の嗜好や体調等に合わせた食事提供を行った。

栄養ケアマネジメントにおいては、ケア計画の内容に従って食事・水分摂取状況や入居者様の状態の変化を把握し、3か月ごとに評価を行った。その中で低体重や体重

減少者においては必要に応じて補食や栄養補助食品を、水分摂取量が少ない方においては水分補給ゼリーの提供を行った。

ア) 2F

入居者様の嗜好や要望に沿った食事内容を検討し提供を行った。おやつレクリエーションでは、入居者様と一緒にホットケーキやプリンアラモードなど簡単なおやつの調理を行い、誕生日会にはロールケーキを提供した。食事レクでは、餃子やフレンチトースト、鉄火丼などユニット職員と協力して企画・調理を行い、見た目を楽しめる提供を心掛けた。

イ) 3F

入居者様の状態に合わせ食べ易さを考慮した食事提供が出来た。誕生日には入居者様全員が食べることのできるババロアケーキやプリンを提供した。

また、入居者様の意向に沿って、お好み焼やたこ焼きのデモンストレーションを行い、楽しくおいしいレクリエーションを実施した。

ウ) 4F

入居者様の身体状況や嗜好、食べやすい食事形態に配慮し、出来る限り個々の状態に合わせた形態の食事提供が出来た。常食で提供している方が多いが、食べにくい食材はユニットにて食べ易く切る等の提供方法の工夫もみられた。おやつレクリエーションでは入居者様の前で調理や盛付けを行い、食事作りの雰囲気を楽しみながら召し上がって頂くことができた。

エ) デイサービス

どの利用者様にも満足して頂ける食事提供を目標とし、食事内容の一部を変更した献立やバラエティーに富んだおやつを提供した。月に一度、季節感のある食材を使用した昼食バイキングやおやつバイキングを行い、選ぶ楽しみを味わって頂き、食事の雰囲気作りにも配慮したサービスの提供ができた。その他、誕生日のロールケーキの提供や利用者様と職員と一緒に簡単なおやつ作りをし、親交を深めるレクリエーションが多かった。

オ) ショートステイ

利用者様の状態に適した食事形態を検討し提供を行った。誕生日会のリクエストに対応するため、ババロアの素やホイップクリームの在庫調整を行った。

2. 栄養ケアマネジメント

- (1) 入居者様全員を対象とし、栄養ケア計画書の作成を行なった。栄養スクリーニングを行い、アセスメントを実施すると共に中・高リスク者の把握を行い、高リスク者は2週間に一度、中リスク者は1か月に1度モニタリングを実施しながら、3か月ごとの評価を基に、プランの確認や変更を行った。低体重や体重が減少傾向にある方、食事摂取不良や体調不良の方への対応として、各部署と

情報を共有し、補食や嗜好に合った食事を提供しながら日々の体調管理に努めた。また、嚥下機能が低下した方への食事内容の検討を行った。

- (2) 食事環境の把握をする為に、各ユニットに訪問し、入居者様の食事摂取状況の観察を行った。各ユニットの担当介護職員から入居者様の体調や普段の食事状況について情報収集を行い、入居者様からは食事に対する様々なご意見を多く頂くことができた。
- (3) 個別の食事対応としては、毎朝パン食・おにぎり食・牛乳の代わりにヨーグルトやジュースでの提供を実施した。その他、嗜好品としては野菜ジュースやみそ類提供、水分補給強化にはお茶ゼリー、体重コントロールの為に低エネルギー甘味料の提供を行った。
- (4) 経管栄養の方の排便状況を観察し、栄養成分を考慮し、使用する濃厚流動食の検討を行った。
- (5) 排便コントロールを図るため、水溶性食物繊維の提供を行った。朝食時の味噌汁や水分に 10g の食物繊維を加え摂取して頂き、経過観察を行った。個々の排便パターンや食事・水分摂取量のチェックを行い、看護職員・介護職員と連携し、必要に応じて食物繊維の調整 (10g ~ 20g) を行った。

個人によって効果の差はあるが、排便リズムが整い、改善傾向の方もいる為、今後も継続していく。

3. 栄養管理

- (1) 施設食事サービス業務全般において総括し、各施設内関係部門との連絡調整、委託業者への指示を行った。
- (2) 献立の確認・指示、食数の指示・管理、食事箋の作成・管理、嗜好調査の実施、検食の実施と検食簿の記入・管理、関係官庁等に提出する給食関係の書類の作成・確認・提出・保管・管理を行った。
- (3) 毎月一度 (第二金曜日) に栄養管理委員会を実施し、各部署と委託業者と食事対応や提供メニューの内容について良かった点や改善すべき点を話し合った。食への向上と入居者様の健康管理を目的とし、食事量や食材の大きさ、嚥下困難者に対するトロミの量について意見交換をし、対応策を検討することができた。誤配膳や異物混入防止については、食事変更時の情報共有だけでなく配膳前チェックの具体的な方法について委託業者とともに検討を行い、安全に配慮した食事提供に努めた。

4. 委託業者との連携

- (1) 調理作業全般、食材管理、施設設備管理、厨房内衛生管理において、委託業者の栄養士と連携を取り、管理を行った。
- (2) 労働安全、衛生の管理として、施設栄養士を含む、調理作業に携わる調理師、栄養士全員を対象に、検便を定期的実施した。

5. 行事食、食事レクリエーションの実施

- (1) 季節感を味わって頂く為、年中行事を中心とした行事食を月に一度の割合で提供した。
- (2) フロア企画のレクリエーションとして、喫茶サービスや季節にちなんだおやつ
の提供、昼食バイキングを行った。献立の調整、食材の発注・管理、調理工程
の確認をして実施した。
- (3) 栄養士企画レクリエーションとしては、夏に各フロアでおやつのかき氷サービ
ス、冬にはぜんざいの提供をした。
- (4) その他として、梅酒・梅ジュースを作り、旬の食材を用いた保存食作りを行っ
た。

6. 老人福祉施設栄養士情報連絡への参加 栄養業務における情報意見交換

- ・平成27年 6月 6日
- ・平成27年10月10日
- ・平成28年 2月13日

〔9〕特別養護老人ホーム

1. 在籍

入居者様の年齢が高齢なる中で、長期入院、医療施設転院の状況がある。3月31日の在籍者は96人となっている。

療養型施設への転出、入院の長期化や死亡等での空室日数があり、平成27年度の稼働率は93.2%、平均在籍者数89.5名である。

平成27年の4月より平成28年3月にかけて、特養に於ける短期入所生活介護の空床利用を実施している。利用延べ人数は1,476名となっている。

次に入居して頂く対象者へは、当施設「優先入居に係わる取扱規定」による優先順位に基づき、入居順位検討結果を平成28年3月末に送付している。ご家族や関係者各位に連絡し、入居して頂けるように手続きを進め、平成27年度における退居日から新規入居日までの期間は平均約7.6日間である。

表1に示す通り、平成27年度の男女比率は、男性が30%、女性70%となり、前年と同様に女性の入居割合が高い。

表1. 平成27年度入居者男女比率（平成28年3月31日現在）

	平成26年度		平成27年度	
	人数	割合	人数	人数

男性	26名	27%	男性	26名
女性	69名	73%	女性	69名
合計	96名	100%	合計	96名

2. 退 居

表2に示すように、平成27年度の退居者は23名であった。死亡による退居者が19名、療養型施設に転院が3名、他介護施設入所1名となっている。

表2. 平成27年度退居者一覧

年 月	退居者数	退居理由
平成27年4月	2名	死亡2名（病院にて）
5月	3名	死亡2名（看取り1名）療養型転院1名
6月	0名	
7月	3名	死亡2名（病院にて）他施設入居1名
8月	0名	
9月	4名	死亡4名（病院にて）
10月	2名	死亡1名（病院にて）療養型転院1名
11月	4名	死亡4名（看取り1名）（他病院にて3名）
12月	2名	死亡2名（病院にて）
平成28年1月	0名	
2月	2名	死亡2名（病院にて）
3月	1名	療養型転院1名
合計	23名	

表3. 年度別退居者数の推移（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平27	2	3	0	3	0	4	2	4	2	0	2	1	23
平26	1	1	1	3	3	2	4	4	2	3	3	2	29
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

3. 新規入居

表4に示す通り、新規入居者様は25名、その内自宅待機20名、老人保健施設待機1名、医療機関待機3名、他介護施設1名となっている。医療機関のサービスを継続的に利用しながら、特養を待機されている。自宅待機者の方々も、短期入所介護を利用されている。それぞれの部署と連携を取りながら、今後も迅速な入居に努める。

表 4. 平成 27 年度新規入居者一覧

年 月	新規入居者数	入居前の居所
平成 27 年 4 月	3 名	在宅 3 名
5 月	2 名	在宅 1 名 医療機関 1 名
6 月	2 名	在宅 2 名
7 月	1 名	在宅 1 名
8 月	2 名	在宅 1 名 医療機関 1 名
9 月	2 名	在宅 1 名 医療機関 1 名
10 月	3 名	在宅 3 名
11 月	3 名	在宅 2 名 老健 1 名
平成 28 年 1 月	3 名	在宅 2 名 介護施設 1 名
2 月	2 名	在宅 2 名
3 月	2 名	在宅 2 名
合 計	25 名	

表 5. 新規入居者の介護度と男女構成比

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
入居者 (人)	0	0	10	13	2
女性	0	0	4	10	2
男性	0	0	6	3	0

表 6. 年度別新規入居者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平 27	3	2	2	1	2	2	3	3	0	3	2	2	25
平 26	0	1	1	3	3	2	3	4	4	3	3	1	28

4. 入居申込みと待機者状況

平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月の間の新規申込は 44 件であった。また、この期間中の申込取下は 18 件であった。平成 28 年 3 月末における入居待機者数は、191 人となっている。

取下げ理由として、他施設入居（重複待機）と、待機中に亡くなる方が増えている。

5. 入院実績の推移

長期入院及び療養型病院への転院もあり、高齢化及び入院中の重篤化が顕著となり、早期受診を実施するも症状の緩和に繋がらない。

昨年度同様、早期受診を行いながら、入院されている入居者様及びご家族の負担軽減の為に、空床利用を推進することを都度ご提案していく。

※入院推移については「平成 27 年度 入院者数の推移」参照

6. 受診実績

受診の頻度は、月平均にすると 29 回となり前年度より減少している。

ご入居者様の高齢化を踏まえ、日常生活の健康状態について回診での診察、施設内における体調の経過記録からも、今後も状態変化に早めの対応が考慮される。

表 8. 受診実績の推移（注：一部の検査関係は除き、家族対応を加えているので、医務の集計とは若干異なる）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平 27 年度 合計回数	34	31	27	39	26	36	23	32	38	21	36	31	347
平 26 年度 合計回数	50	49	46	33	30	37	49	39	22	30	25	37	447

平成 27 年度 在居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	95	96	95	97	95	97	95	96	94	92	95	95
2日	95	96	95	97	95	97	95	96	94	92	95	94
3日	96	96	95	97	95	97	96	96	94	92	95	94
4日	96	96	95	95	95	97	96	96	94	92	95	94
5日	95	96	96	95	95	97	96	96	94	92	95	94
6日	94	95	96	95	95	97	96	95	94	92	95	94
7日	94	95	96	95	96	97	96	95	94	92	95	94
8日	94	94	96	95	96	97	96	95	94	92	95	94
9日	94	94	96	95	96	97	96	95	94	92	95	94
10日	95	94	96	96	96	97	96	95	94	92	95	94
11日	95	94	96	96	96	97	96	95	94	92	95	94
12日	95	94	96	95	97	97	96	94	94	92	95	94
13日	95	94	96	95	97	97	96	95	93	92	95	94
14日	95	93	96	95	97	96	96	95	93	92	94	94
15日	95	94	96	95	97	96	96	95	93	92	94	94
16日	95	94	96	95	97	96	96	95	93	92	94	94
17日	95	94	96	95	97	96	96	95	93	92	94	94
18日	95	94	96	95	97	96	95	95	93	93	94	94
19日	95	94	96	95	97	96	95	95	93	94	94	94
20日	96	94	96	95	97	96	95	95	93	94	94	94
21日	96	94	96	95	97	96	95	95	93	95	94	94
22日	96	94	96	95	97	96	95	95	93	95	94	94
23日	96	94	96	95	97	97	94	95	93	95	95	94
24日	96	94	96	95	97	95	95	95	93	95	95	95
25日	96	94	96	95	97	95	95	94	93	95	95	95
26日	96	94	96	95	97	95	95	94	93	95	95	95
27日	96	95	96	95	97	95	95	94	93	95	95	96
28日	96	95	96	95	97	95	95	94	93	95	95	96
29日	96	95	96	95	97	95	96	94	93	95	96	96
30日	96	95	97	95	97	95	96	94	92	95		96
31日	95	95	95	95	97	97	96		92	95		96
月間在居人数	2,783	2,856	2,730	2,782	2,809	2,684	2,764	2,683	2,735	2,692	2,498	2,741
定員数	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976	2,976
平成 27 年度在居率	93.51%	95.97%	91.73%	93.48%	94.39%	90.19%	92.88%	90.15%	91.90%	90.46%	83.94%	92.10%

★平均在居率 91.73% 平均在居人数 89.48 人(年間在居人数 32,757 人 年間定員数 35,712 人)

平成 26 年度在居率	95.10%	94.32%	91.46%	93.38%	93.88%	93.54%	91.80%	90.28%	89.92%	91.80%	94.57%	96.03%
-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

★平均在居率 93.64% 平均在居人数 89.27 人(年間在居人数 32,585 人 年間定員数 34,984 人)

平成 27 年度 入院者数の推移

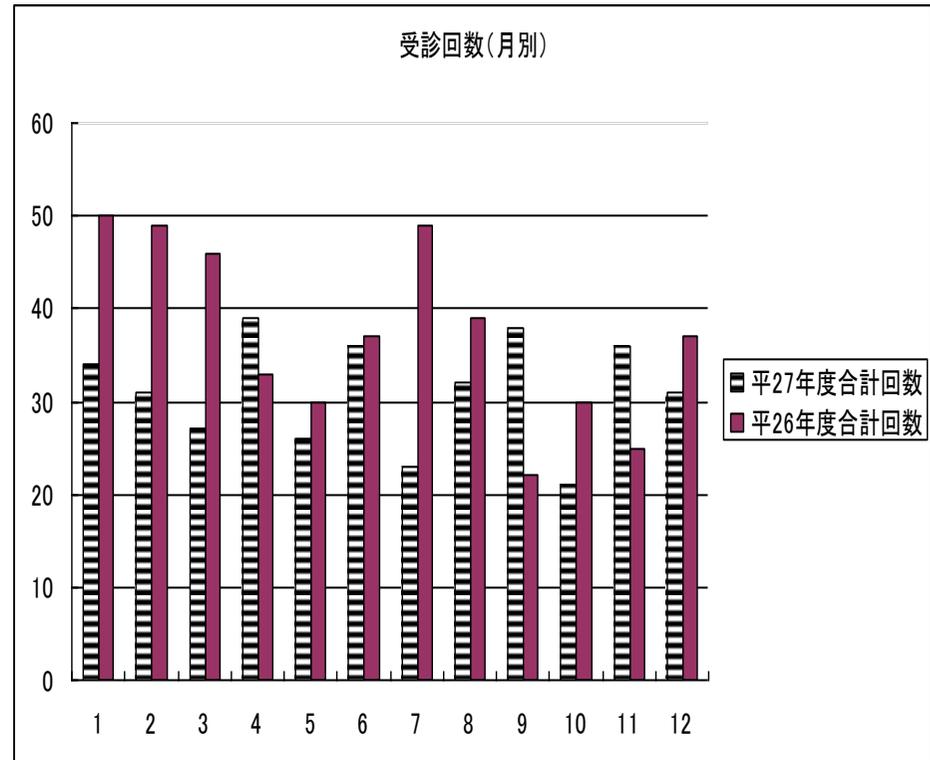
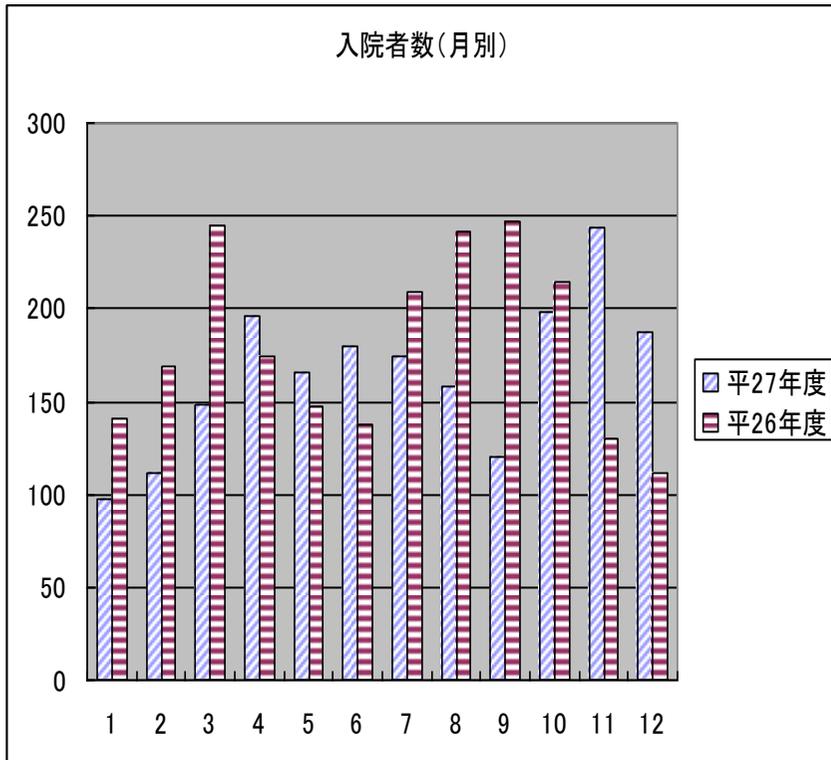
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	5	2	5	7	4	6	6	4	4	5	7	8
2日	5	3	5	7	5	6	6	4	4	5	7	6
3日	4	3	6	8	4	6	6	4	4	6	8	6
4日	4	3	6	7	4	6	6	4	4	6	9	6
5日	6	3	6	7	4	5	6	4	4	6	9	6
6日	6	3	6	7	4	5	6	3	4	7	8	6
7日	6	3	6	7	4	5	6	3	4	7	8	5
8日	5	3	6	7	4	6	6	4	4	6	8	5
9日	5	4	6	7	6	6	6	4	3	6	8	6
10日	4	4	6	6	5	9	6	5	4	6	7	6
11日	4	4	6	6	5	9	6	4	4	5	7	5
12日	4	4	6	6	5	8	6	4	4	5	8	6
13日	4	4	4	6	5	8	6	5	4	5	8	6
14日	3	4	4	6	4	7	6	5	4	5	8	6
15日	3	3	4	6	4	6	6	5	5	6	9	6
16日	3	3	4	7	4	6	6	5	5	6	9	7
17日	3	3	4	6	4	5	6	6	5	6	9	7
18日	3	3	4	6	6	5	6	7	4	6	9	6
19日	3	3	4	6	6	5	6	7	4	6	9	7
20日	3	3	4	6	6	6	6	6	4	6	10	7
21日	1	4	4	6	7	6	6	7	4	7	10	7
22日	1	4	4	6	7	6	6	7	3	7	10	7
23日	1	4	4	6	7	7	5	7	3	7	9	7
24日	1	4	4	6	7	6	5	7	2	8	9	7
25日	1	4	4	6	7	5	5	7	2	8	8	6
26日	1	4	4	6	7	5	5	6	3	8	8	5
27日	1	4	5	6	7	5	5	6	3	7	8	5
28日	2	5	5	6	6	5	5	6	3	7	8	5
29日	3	4	5	6	6	5	4	6	5	7	9	5
30日	3	5	7	6	6	5	4	6	5	8		5
31日		5		5	6		4		5	8		5
平 27 年度	98	112	148	196	166	180	174	158	120	198	244	187

(年間延べ人数 1,981 人 月平均 165.1 人)

平 26 年度	141	169	245	174	147	138	209	242	247	214	130	112
---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

(年間延べ人数 2,168 人 月平均 180.7 人)

※入院者



7. 要介護度推移

表9の通り、身体の状態の変化が大きく、今年度一年間の介護度は、平均介護度4.0となっている。

表9. 要介護度の推移（平成27年度平均介護度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介1(人)									1	1	1	1
介2(人)	3	3	4	4	4	5	5	5	4	4	4	4
介3(人)	20	21	20	21	22	24	23	22	22	23	24	25
介4(人)	40	39	38	38	38	36	37	40	38	38	39	39
介5(人)	36	36	35	35	34	34	33	32	29	29	29	28
平27平均介護度	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9
平26平均介護度	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1

8. 平均年齢推移

入居者平均年齢87.6歳（男性：82.8歳、女性：89.4歳）

表10. 平均年齢の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
女性	90.07	90.12	90.34	90.43	90.31	90.30	89.96	89.95	90.04	90.36	90.33	90.27
男性	83.18	82.88	82.15	82.28	81.87	81.96	81.76	91.36	81.35	81.11	81.20	81.28
平27年度全体	88.10	88.13	88.06	88.10	87.79	87.85	87.62	87.61	87.64	87.64	87.60	87.58
平26年度全体	87.46	87.34	87.43	87.38	87.55	87.67	87.81	87.69	87.78	87.89	87.79	87.83

9. 収入段階、利用料

収入段階による利用料は、減免申請により、第2,3段階が52名となっている。女性の新規入居者様のご家族が、負担限度額段階区分の申請をされ、自己負担の軽減を図られている。

収入段階	平成27年度末		平成26年度末	
	人数	構成比率(%)	人数	構成比率(%)
第1段階	0	0	1	1
第2段階	44	45	45	47
第3段階	8	9	18	19
第4段階	45	46	32	33
合計	97	100	96	100

10. 外出

平成27年4月1日から28年3月31日の間の、入居者様のご家族と外出した回数を示したものが表12である。外出要因として、主に自宅やご家族の家への外出や、外食、通院などが上げられる。

今年度は、のべ107名の方々が外出されている。

表12. 家族との外出回数

外出回数	人数	比率 (%)
5~10	26	24
4	13	12
3	16	15
2	25	23
1	17	16
0	10	10
計	107	100

11. 外泊

今年度は外泊の件数は4件(4名)となっている。特定の利用者様が複数回の外泊をされている。ご家族の希望、要望に沿って、介護タクシー手配、車椅子活用、各部署の事前連絡、状態確認も含め、今後も対応に努める。

12. 面会

今年度の面会者の総数は、延べ6,516人と多くの方に来て頂けた。1日の面会者の平均人数は17.8人であった。

ご家族が来所の際は、なるべく日頃のご様子を伝えることにしている。ほぼ毎日面会に来られるご家族もいらっしゃり、安心して生活を送れている。来年度も引き続き多くの方に面会に来て頂けるように、ご家族へ働きかけを行っていく。

13. 生活相談員の業務を振り返って

入居されている方々の高齢化と身体状況の変化を考慮する状態が増えてきている。日々の生活が、穏やかに経過して頂けるように一層の状態把握が必要となっている。状態変化に対する受診と医療的ケアの対応も、観察、記録を通じて行っていく必要がある。

今年度は、23名の方々の退居と、25名の新規入居者様を受け入れている。ご家族、関係各位との連携と、ご家族の年齢も踏まえて対応に努めたい。

これからも、安全、安心の日常生活の継続を図り、相談業務における支援に役立てて行きたい。

14. その他

(1) 居室の有効利用

前年度に引き続き、入院される入居者様及びご家族の負担軽減を図る為、居室の有効利用（空床利用）をご家族に提案し、実行した。

重ねて、近隣の緊急性の高い短期入所希望の方々の受け入れを積極的に行い、入居者様に限らず介護保険をご利用されている皆様が安心してご利用できるよう、関係部署との連携を密にし、日程の調整に努めた。

(2) ご家族への連絡

状態の変化についての報告を適宜行い、介護費用の負担を極力抑えられるよう「再利用できる家具の設置や、サンプル衣類の提供」を通じて協力体制に努めた。

(3) 保険情報提供

厚生労働省及び、各種外郭機関の情報収集に努め「介護保険」に留まらず「医療、障害保険」の情報提供を行なった。

15. 介護

【ケアプラン】

ケアプラン作成、モニタリングの実施により、入居者様に対して、メリハリのあつた生活の提供は一定の水準で行えている。フロア・ユニット内での連携も築かれており、ケアプランの作成に伴い情報の共有化も出来ている。今後は、主任やユニットリーダーが中心となり、ケアの質をどのように向上していくかが課題である。

【カンファレンス】

入居者様、一人ひとりの無理の無い計画に基づき、各専門職との意見交換は計画的に行えた。また、入退院により、状況に変化が見られる入居者様については、担当介護職員とケアマネジャー、他職種との連携により速やかに計画を再立案し、カンファレンスを行うことが出来た。

【モニタリング】

作成されたケアプランの情報を共有化し、フロア職員全体でモニタリングを行った。リハビリを中心としたモニタリングについては、機能訓練指導員を中心とし、担当介護職員も積極的に訓練を実施し、評価した。

【身体的ケア】

(1) 食事

入居者様の身体状況の変化に合わせた食事形態を、日々の状況や職員間の情報を共有し、検討しながら提供できた。食事量や体重の増減についても、栄養科や医務と連携し、ご本人やご家族の意向に沿ったケアの実施を心掛けた。

(2) 入浴

入居者様の身体状況や精神状況に合わせた入浴場の提供が出来た。また、身体状況により入浴が困難な方においては、洗身用品を用いた全身清拭と更衣を実施した。週2回の入浴は、予定通りに提供する事が出来た。

(3) 排泄

引き続き、下剤に頼らない自然排便に向けた取り組みとして、入居者様のトイレやポータブルトイレへの排泄に取り組んでいる。食物繊維や水分摂取の状況を確認しながら、医務、栄養科と連携を取っていく。

今後もそれぞれの方の身体機能の状況に合わせ、無理のないようトイレ誘導を実施していきたい。

(4) 更衣

入居者様の意向を尊重しつつ、季節や身体状況に合わせた服装を心掛けて更衣にあたった。また、更衣の際も、個々の身体機能に合わせた介助を行った。

(5) 整容・口腔ケア

口腔内の清潔に努め、歯科医師とも連携し、口腔ケアを行った。また、胃瘻や経管栄養の入居者様についても、歯科医師に介助方や道具についてアドバイスを頂きながら、口腔内の清潔保持に努めた。

整容では、各ユニットで年間の表を作り、計画的に理美容をご利用頂けるよう取り組んだ。

(6) 健康管理・水分補給

重大な感染症の発症は無かったが、3月にノロウイルス感染者が発症した。マニュアルに沿った初期対応を行った事で、他者への感染は抑える事が出来た。また、年間を通しての体調管理として、精神面も含めて落ち着いた生活の提供が出来た。水分補給については、排泄ケアと関連付けられる摂取量についても、1500 ccを基本として、一定の水分量確保の為の援助が出来た。一部の1500 ccに満たない入居者様については、お茶ゼリー等を作り、工夫しながら取り組んだ。

(7) アクティビティ

日常生活の中で、入居者様の個々の楽しみを尊重し外出や外食等の機会を提供した。またその他、季節感のある行事等も職員間で提案し、お花見や花火等の季節的な楽しみの提供も行った。

(8) その他

27年度も薬関連の事故や骨折の事故が発生してしまった。都度、原因の究明と再発防止策を講じ、川越市に報告した。また、骨折事故が発生しなかった部署については、各職員の入居者様に対する日頃の身体状況の変化や気づき、ヒヤリハットの段階での迅速で的確な対応に努めた結果が、骨折事故の発生を抑える事に繋がったと思われる。骨折事故に限らず、日常生活に危険がないよう職員一同継続して努めていきたい。

【精神的ケア】

入居者様との会話を重視し、入居者様との密接な関係を作ることに努めた。入居者様の依存傾向が見られる方もいるが、日々の生活に不自由の無い様に配慮しつつ、良好な関係を保てるように援助していくことが出来た。また職員への対応について、大きな苦情等は見られないが、職員への言葉遣いや接遇態度の更なる向上が今後の課題である。

【社会的ケア】

地域との交流を深めるため、入居者様の気分転換のための定期的な外出や散歩等、時間を設定し積極的に行なうよう努力した。また、入居者様ご家族との会話、情報の提供のお願いなどスムーズに行えた。入居者様の起床、就寝などの生活リズムにあったケアの提供では、入居者様の生活リズムに合わせて行えた。ライフスタイルの尊重では、フェイスシートやご家族からの情報などにより、その入居者様のライフスタイルの性格、特徴を職員間で認識できた。今後も入居者様の状態の変化に応じて、個別対応に留意していく。

【環境整備】

(1) 個人空間

居室は、入居者様の意向や生活環境を尊重した整備を心掛けたが、隅々までの清掃・清潔保持には課題が残った。

(2) リビング

床清掃は、入居者様の就寝後、毎日実施した。また、ユニット内のレイアウトは、それぞれのユニットで工夫し、季節感のある雰囲気作りを行っていた。

(3) ユーティリティ

床清掃は毎日実施し、環境整備については、ユニットリーダーを中心に行った。衛生面・安全面についても、配置の見直し、徹底を行った。

【その他】

(1) クリーンルーム

毎週清掃を行い、清潔保持や整理整頓に努めた。

(2) 共有スペース

安全な家具の配置、常に同じ位置に家具の配置を心掛け、何時、ご家族と入居者様がご利用されても心地よく利用できるよう心掛けた。

(3) 個人情報の取り扱い

フェイスシート等の個人情報のファイルについては、各ユニットで統一した場所で保管・管理を行っている。しかし、パソコンや日々の記録の書類に関しては、使用外の管理に問題がみられ、情報管理の視点から、記録類から離れる際には、パソコンのファイルを閉じる、記録等の書類はリビングに放置しない等の、職員の日々の心掛けや注意が必要である。

〔10〕 デイサービス

【安心してご利用いただけるデイサービスの運営】

利用者様、ご家族に信頼されるデイサービス作りを目標とし、職員の質の強化を図り、細かな要望に対応できる質の良いデイサービスを進めた。

職員については毎月のレクリエーションを個々が担当し責任を持って遂行し、待遇の強化に努めた。

【利用内容の明確化】

① 新規実調時にサービス利用時の細かな時間及び活動内容の説明。

- ② ケース記録をパソコン及び紙ベースの両方に記載し、担当者会議及び利用者様各々の受診の際にお役立ちできるよう開示した。

【利用受け入れ態勢の強化】

- ① ご家族、ケアマネジャーの希望に合った利用曜日を設定し、入浴形態もご本人の意向に沿って実施した。
- ② 新規ご利用前の体験利用をお勧めし、ご本人ご家族同意の上で契約させて頂いた。

【個別援助の充実】

利用者様の多彩なニーズに応えるべく、現存のアクティビティ（集団援助）及び各種体操（集団的訓練）に加え積極的な声掛けを実施し、ご本人が抱えている問題を汲み取り担当ケアマネジャーへの報告を行い、問題解決への連携を強化した。また看護師の指導の下、個別機能訓練（残存能力の維持・強化）の見直しを行い、ケアマネジャー及びご家族へ報告を行い、モニタリングに努めた。

感染予防については『清潔な空間の提供』に取り組み、利用者様帰宅後のサニタリー空間のアルコール及び次亜塩素消毒を毎日実施致した。

利用者様来所時には「うがい」・「手洗い」をして頂き感染予防に努めた結果、インフルエンザ等の感染症の発症は無かった。今後も引き続き感染予防に取り組んでいく。

【実績報告】

登録者数としては、増減を繰り返している。実績者数としては、ショートステイ利用、入院、体調不良等で欠席者もあったが、前年度平均より実績者数は増加しており、特に下期の増加が目立った。

【登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	50	52	53	56	57	57	56	60	59	59	60	60	679
27年度	62	61	64	68	67	67	66	65	62	64	61	61	768

【営業内容】

定期的な居宅支援事業所への挨拶を行い、新規事業所からの利用者獲得に努めた。

【一日平均利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	15.1	14.8	15.9	16.8	16.8	16.4	17.1	16.7	17.8	16.7	16.2	16.6	196.9
27年度	16.6	16.0	18.8	19.3	20.1	20.3	22.5	20.0	21.8	21.5	21.6	21.2	239.7

【延べ利用者数】

平成 27 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合計(人)	男	117	116	132	140	159	159	178	153	164	162	156	155	1791
総合計(人)	女	312	300	365	380	369	380	412	373	370	345	391	420	4417
総合計(人)	合計	429	416	497	520	528	539	590	526	534	507	547	575	6208

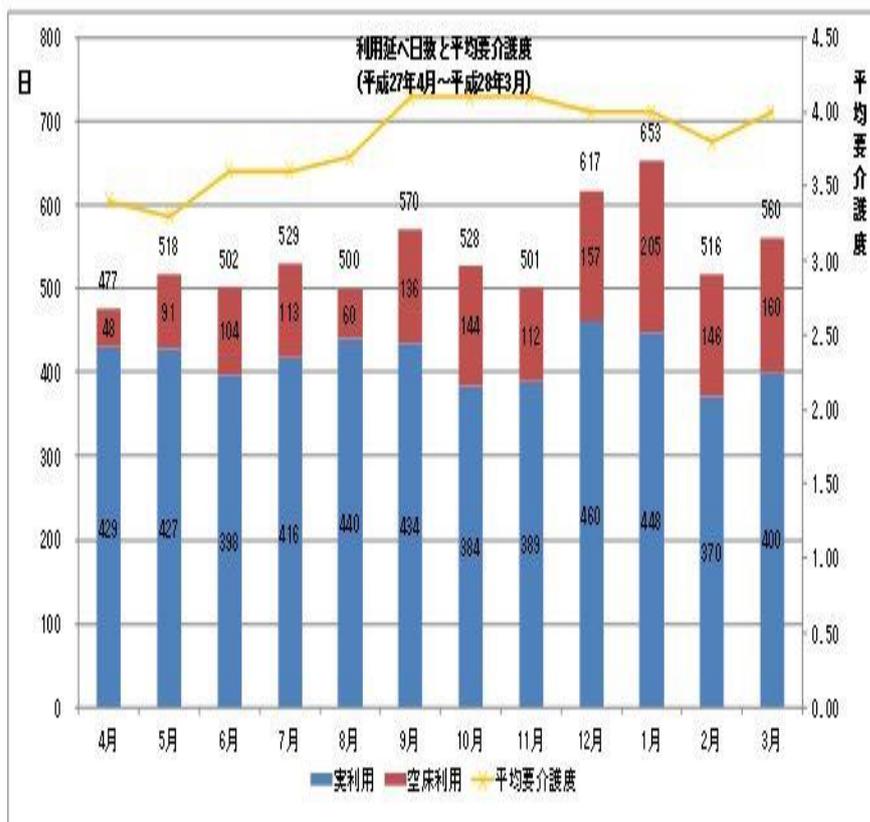
平均介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 26 年度	2.1	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	2.5	2.6	2.5	2.4	2.3	2.4
平成 27 年度	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5

〔 1 1 〕 ショートステイ

I. 利用実績（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

1. 利用延べ日数と平均要介護度



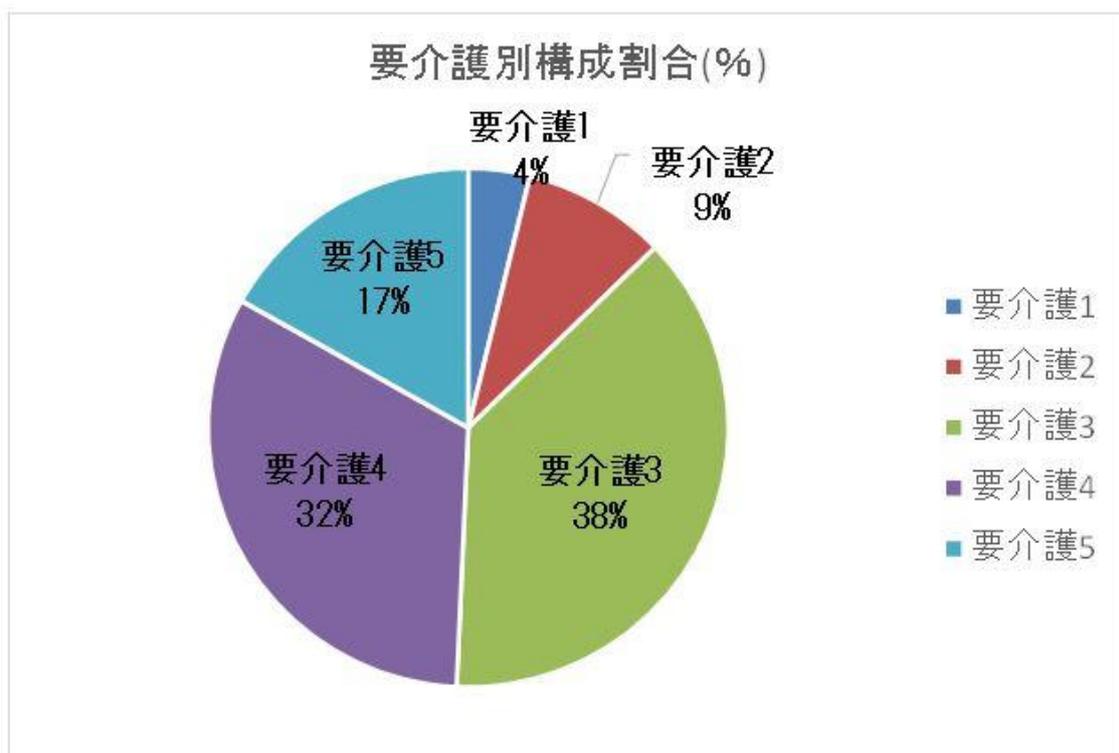
前図は、退所者数を除く月別利用延べ日数と平均要介護度を表している。まずは、平成 27 年度の介護報酬改定により、①長期利用者の減算(同一短期入所を連続して 30 日を超えて利用した場合)について従来通り適用することにした。

何故なら、その受入可否の判断として、介護報酬を得るか得ないかの二択選択しかない。ご利用者様やご家族様の利用目的、諸事情と制度上の連続利用 30 日を上限とすることは相反し根拠がない。②新設の加算については、主に看護体制加算の取得に関連する。現在はその加算を取得できず運営している。

1 日あたりの利用者数は、20.5 人(利用延べ 7,480 日/年)である。

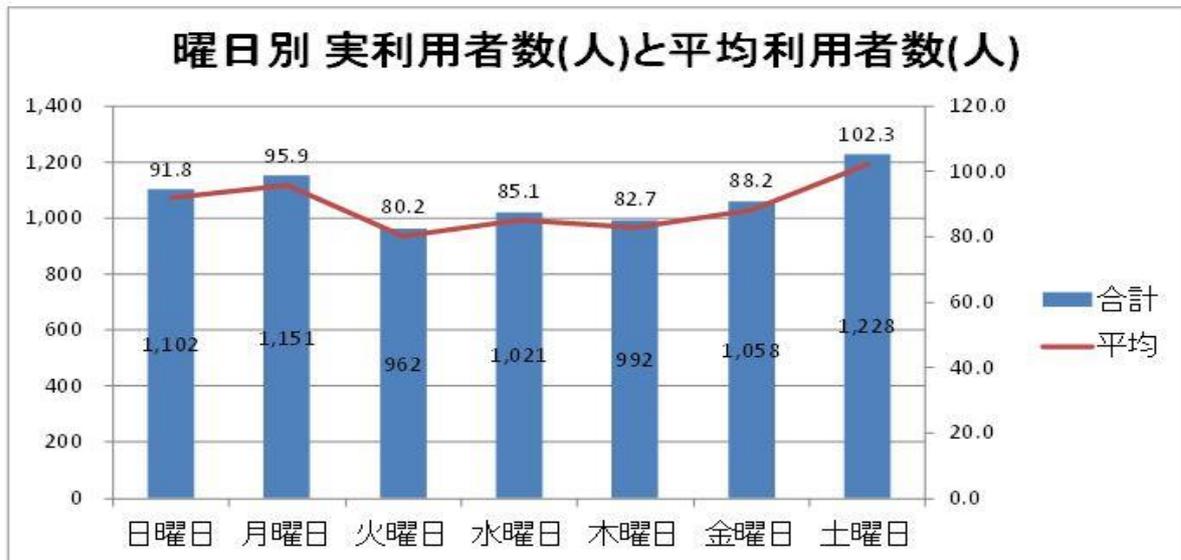
次に平均要介護度が過去 3 年と比べ 0.5 ほど上がっている。平均で要介護 4 を超えた。今後も介護報酬と合わせて注視していく。

2. 要介護度別利用延べ日数



要介護別の利用延べ日数(退所者数を除く)を見ると、前述の通り、要介護 3 と要介護 4 で約 70%を占めている。今後も要介護 3 と要介護 4 を中心に利用を構成すると見込んでいる。本年度の介護報酬改定からも、訪問系・通所系サービスの利用へ制度転換している結果でもあろう。過去 3 年の傾向から、病院の退院を皮切りに利用するケースは増えており、入所中に要介護度の見直しも上図の構成の一因と読む。また、介護老人福祉施設や特定入居者施設を退所し利用するケースも微増している。

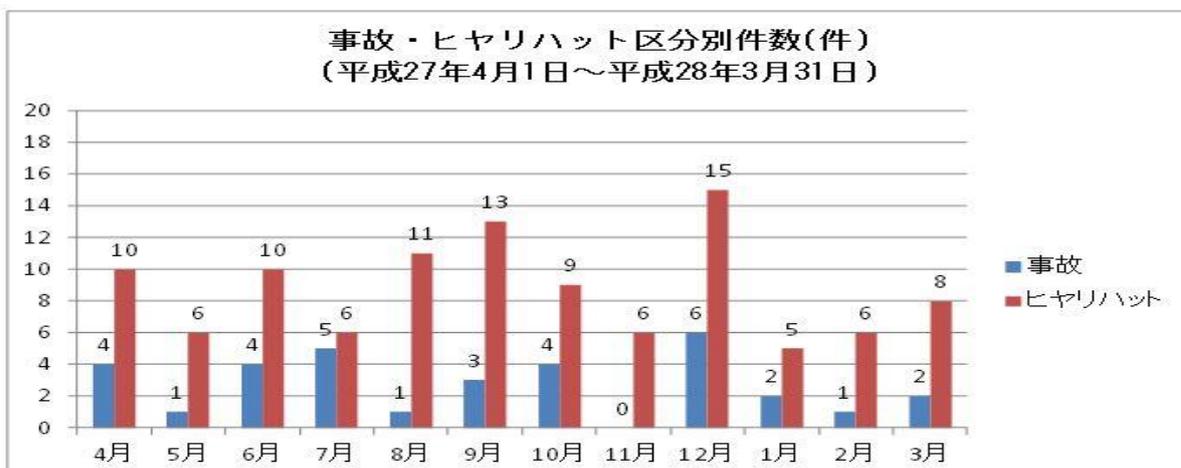
3. 曜日別実利用者数と平均利用者数



次に、曜日別で利用者数(退所者数を含む)を見ると、ある2つの利用パターンが推察される。①週末を利用するケースと、②週末は自宅で介護するケースである。初年度から、週末の土曜日から翌週の月曜日(2泊3日)まで利用するケースは増えている。また、過去3年と比べれば、金曜日から翌週の月曜日(3泊4日)までの利用へ変わってきている。そして、定期利用で週末は自宅で介護するケースも増え、水曜日から金曜日など概ね2泊3日の傾向がある。今後は1人あたりの長期利用者(連続利用30日超え)を除く利用期間の傾向を掴み分析を進めていく。

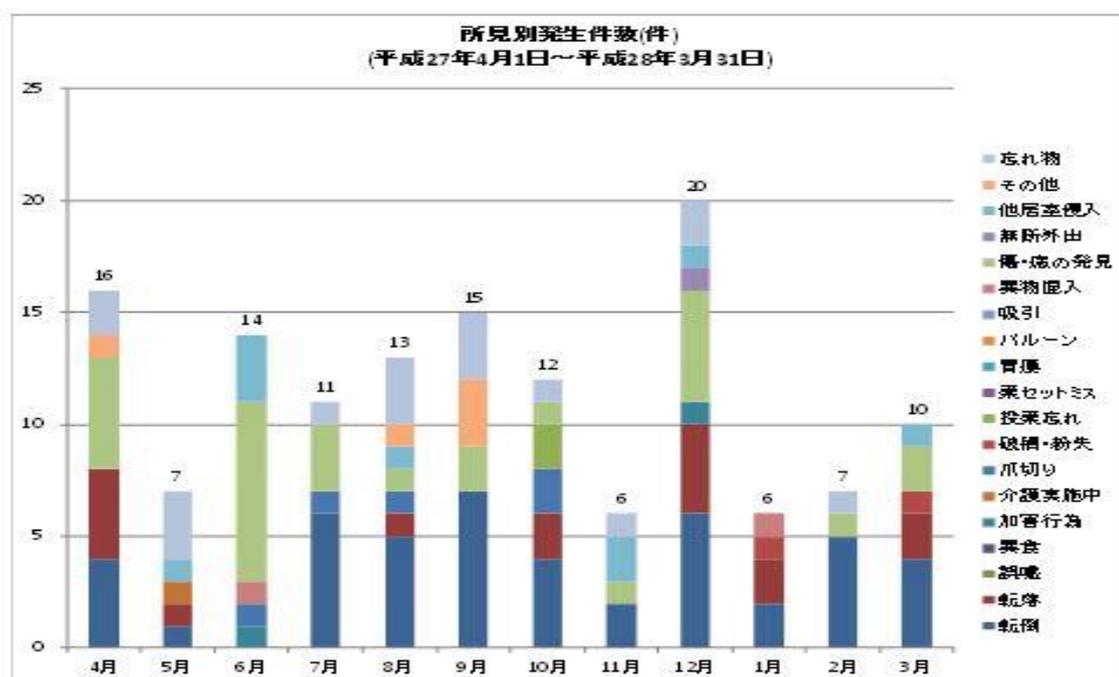
II. 事故統計(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1. 事故・ヒヤリハット区別発生件数



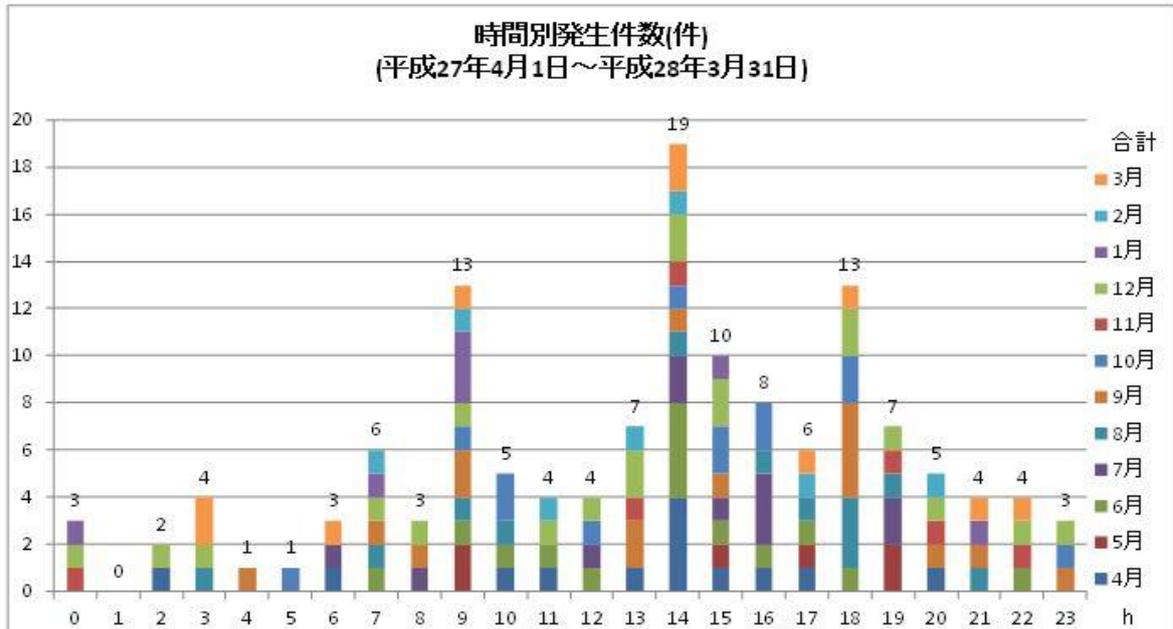
前年度の事故・ヒヤリハット件数に比べ、相対的に件数が減った。また、無事故の月や1~2件の事故の月が目立ち事故撲滅に傾注できた。しかしながら、同一利用者の事故・ヒヤリハットが過去3年と比べ件数は減少しておらず再発するケースが起きている。今後は、入所中に考査・評価を重ね、ご利用者様やご家族様へ自宅で介護する上で注意すべきところ等、関係事業所間と連携を図り、有効な情報を提供できるように繋げられる事故再発防止策を講じていく。

2. 所見別発生件数



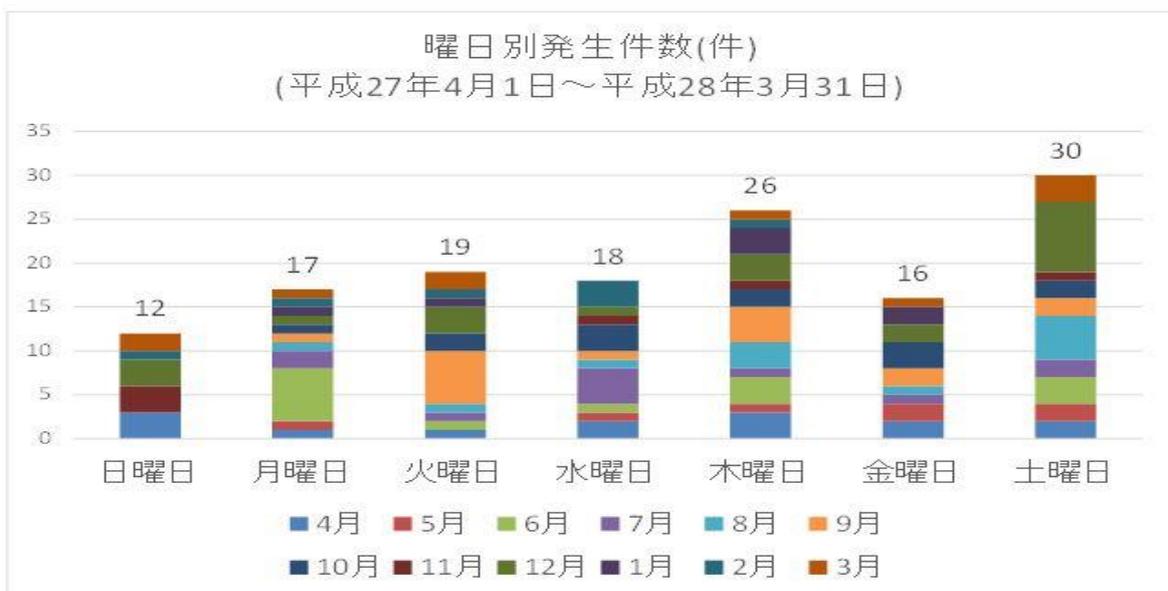
前図の所見別の発生状況について、過去3年に比べ忘れ物(受託物管理)の件数は16件と大きく減っている。今後はこれまでの経験を活かし、当該業務の効率化を押し進める。傷・痣の発見は、入所日の午後に入浴する際に、皮膚状態の観察・ケアを行なっている結果で件数は所見別の中で最も多い。また、前述の同一利用者で転倒再発のケースが多い。

3. 時間別発生件数



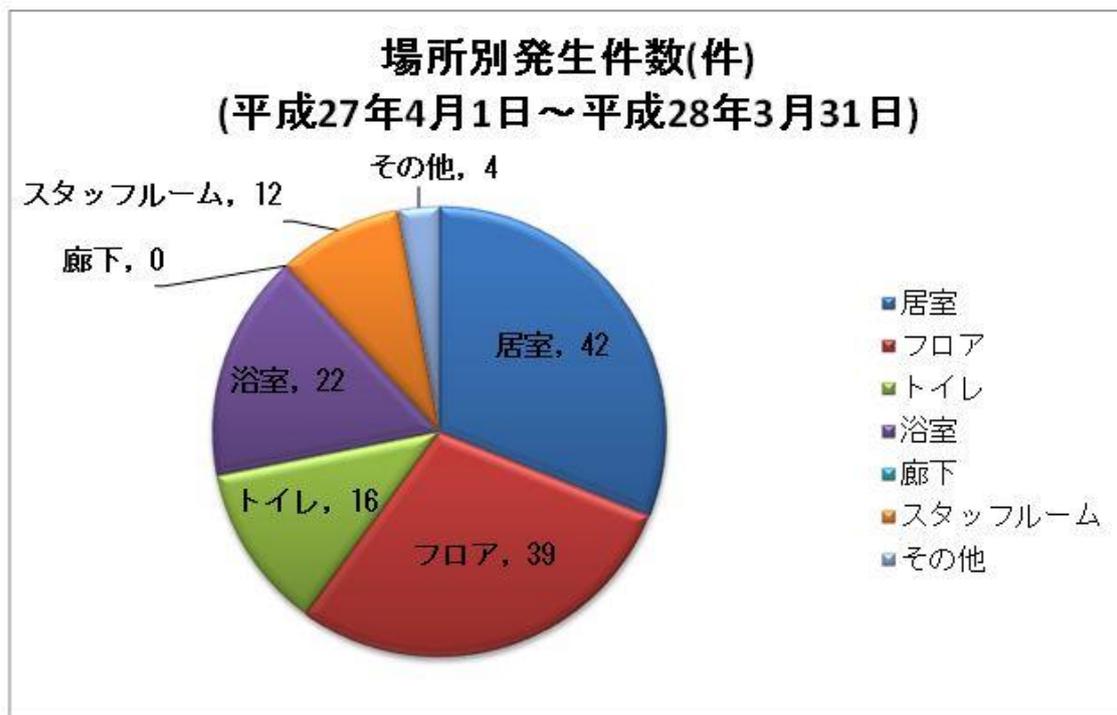
過去3年において、14時から18時の時間帯に事故が多く発生する傾向にある。幾つかの要因として、ユニット業務の立場から、①午後の入浴前後のケア、②入退所関連業務、③ご利用者様やご家族様への事務・情報処理、④ご利用者様のケア、⑤送迎業務と短時間に集中的に稼働を求められている。午前9時の発生状況については、入退所関連業務とユニットケアを併行しているのが大きな一因である。

4. 曜日別発生件数



前頁の曜日別の利用者数(人)から土曜日が最も多い。過去3年と比べれば、日曜日と月曜日の事故発生件数が減った。今後の課題とすれば、土曜日は入所者数が多く、入退所関連業務と重なり最も発生しやすいのが現状である。予測できなかったのが、曜日別の利用者数(人)から木曜日は利用者数が少ない傾向にあるが、事故発生件数が2番目に多いという結果である。この要因は調査し原因を追究しなければならない。

5. 場所別発生件数



前図の場所別において、忘れ物(受託物管理事故)＝スタッフルームの環境と深い因果関係がある。現在は効率的に作業を進められるスペースは殆どなく常に環境整備が求められる場所である。利用者個々の所持品等の取扱・管理方法は居室の活用を模索するも、職員(管理側)の手許からその所持品等を一時的に離しても更なる紛失トラブルの要因となる。よって、本年度の介護報酬改定内容から緊急受入加算の適用要件や利用者の待合室として、有効な場所を確保する必要があると判断している。

居室＝夜間、フロア＝日中と対照的である。主に日中の入退所関連業務時の一時的にご利用者様へ目が行き届かなくなった時に、フロアでの事故を誘発する。

これらを踏まえ、最も事故が起こりやすい条件が導かれる。土曜日の午前9時、フロアと土曜日の14時から18時のフロアである。今後も入退所時間など詳細に分析を進め、事故の発生率・状況を把握することは勿論のこと、その事故の影響度を定量・定数化を図る。

Ⅲ. まとめ

1. 本年度の取り組みについて…

顧客満足度アンケートや従業員満足度アンケート(メンタルヘルス・ストレスチェック)、業務効率化を図るため新たな情報・機器等の知見を深めた。これまでの困難事例から経験値を高め、それらを強みとし新たな事業展開も臨まれる。

業務効率化を図るための新たな機器を導入する等の職員ひとりひとりが‘今、何が必要なのか、これからどうすれば良いのか’など目標をもって意識醸成し少しずつ実行できる体質になってきた。ひとつの物事・事象に対し、多面的に捉え問題点を提唱でき実行できるまでに成長した。

〔12〕居宅介護支援事業所

【基本から学んだ1年】

27年度は「基本的なことを大切にした援助」ということで1年間取り組んだ。介護保険制度のもとでのケアマネジャーであるとはいえ、医療・障害・年金など様々な制度が利用者様につながっており、そのことも踏まえた上での支援が多い1年であった。諸制度についてはまだまだ知識不足で学ぶが必要となっている。己に関しての「気づき」も踏まえ、次年度も前に進んでいきたい。

○地域

地域包括ケアシステムの構築実現に向けての動きが活発になる中で、当事業所としても「地域の中の事業所」としての取り組みが必要と感じている。しかしながら27年度、具体的な取り組みは行えていなかった。

身近な相談場所としての存在になれるよう、できることから始めていくようにしたい。

○担当件数

27年度も、26年度同様にケアマネジャー2名体制においては担当上限数には達しない状況であった。その上、一時的とはいえケアマネジャー1名体制になる期間があったために担当ケースを他事業所に依頼し引き継いで頂くという状況にもなり、利用者様・ご家族・関係事業所にもご迷惑をおかけすることになってしまった。

皆様にご迷惑をおかけしないことはもちろんのこと、事業所経営という面からも安定した対応ができる事業所となるよう努力をしていきたい。

安定感のある柔軟な対応ができる事業所となるために、支援する側であるケアマネジャー自身の「バランス感覚」にも気をつけていくようにする。

平成 27 年度 事業報告書

2016 年（平成 28 年）5 月 22 日 発行・印刷

監修・編集 社会福祉法人 芳清会

印刷・製本 社会福祉法人 芳清会

TEL 049-247-7311

FAX 049-247-7312

URL <http://www.houseikai-y.jp/>

E-mail yasenosato@houseikai-y.jp